

# 第6学年 社会科学学習指導案

## 1 小単元名 「不平等条約の改正をめざせ！～明治の日本を動かした人たち～」

### 2 小単元の構想

<p>こんな子どもだから（子どもの実態）</p> <p>○<b>関心・意欲・態度</b>          本学年の子どもたちは、社会科の学習を好きと感じている子が多く、歴史学習に興味・関心をもって取り組んでいる。「西郷・大久保と明治維新」の学習では、新しい日本をつくるために倒幕に動いた西郷隆盛、新しい政治の仕組みをつくった大久保利通たちのはたらきについて、意欲的に調べることができた。</p> <p>○<b>資料活用・表現・コミュニケーション能力</b>          子どもたちはこれまでの歴史学習で、年表や資料をもとに調べ、自分の考えをつくることのできるようになってきた。また、調べたことをわかりやすくまとめたり、発表したりすることもできるようになってきた。自分の考えを積極的に発表する子や、友達の発言とつないで発表する子も増えてきたが、質問や意見を出し合い、考えを高めしていくことは十分にできていなかった。</p> <p>○<b>知識・理解，社会的な見方・考え方</b>          前小単元「西郷・大久保と明治維新」の学習では、子どもたちは明治維新について調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革によって近代的な政治の仕組みが整ってきたことや、文明開化により欧米文化が取り入れられて人々の生活が変化してきたことを理解することができた。明治時代前期の日本は、富国強兵というスローガンを掲げ、欧米諸国に追いつくために、政治・経済・文化の面で大きな改革を遂げてきたという見方・考え方が育ってきた。</p>
--

<p>こんな教材で（教材の価値）</p> <p>○<b>地域の特徴や人物の生き方</b>          本小単元では、様々な人物が努力して明治政府の悲願であった不平等条約を改正していく様子を教材として取り上げる。ここでは、伊藤博文、陸奥宗光、小村寿太郎、東郷平八郎らが日本のために力を尽くして近代日本の礎を築いていったことや、物事を成し遂げていく人物の生き方を感じることができる教材である。</p> <p>○<b>資料活用・表現・コミュニケーション能力</b>          明治政府が不平等条約の改正に成功したわけを年表などの資料をもとに調べたり、考えたりしやすい教材である。また、資料や人物のエピソードも多く、人物に寄り添った追究が期待できる。話し合い活動では、それぞれの追究の視点から、事実や自分の考えを話し合ったり、図式化して事実と事実の関連を整理したりして、自分の考えを高めしていくことができる。</p> <p>○<b>知識・理解，社会的な見方・考え方</b>          本教材では、大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争の勝利、産業・科学の発達、陸奥宗光、小村寿太郎ら外務大臣の努力により、不平等条約が改正されたことを理解することができる。このことは明治中・後期において、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上していったという見方・考え方を育てる上で意義深い。</p>
---

<p>こんな支援を（学習活動の工夫）</p> <p>【<b>つかむ段階</b>】          ノルマントン号事件で25人もの日本人が見殺しにされたにもかかわらず、船長は軽い罪で済んだことから、不平等条約改正の必要感をもたせる。そして、年表をもとに不平等条約の改正には長い年月がかかり、多くの外務大臣が改正に失敗していることから学習問題につなげる。予想の場面では、新たな資料から予想を立てさせ、少人数による話し合いを仕組み、自分の追究の視点を明確にさせる。</p> <p>【<b>さぐる段階</b>】          不平等条約の改正に向けて明治政府が行ったことを、追究の視点にそって調べさせるために、追究の視点に沿った資料を準備する。次に、調べた事実と自分の考えを整理していくために、学習ノートの形式を工夫をする。</p> <p>【<b>まとめる段階</b>】          話し合い活動を活発にするために、同じ予想のグループでの中間交流や他のグループの考えを知り、質問を考える時間を設定する。調べた内容を教師が把握し、発表するグループの順番を考えて、子どもたちの相互指名で話し合いを進める。そして、教師の意図的指名や構造的な板書構成によって子どもたちの考えを整理する。さらに、事実と事実の関連を考えたキーワード図をもとにして話し合い、不平等条約を改正することができたわけと明治の日本についてまとめていく。</p>
---

<p>こんな子どもに（小単元の目標）</p> <p>○ 不平等条約の改正について関心をもち、なぜ不平等条約を改正することができたのかという問題について意欲的に追究することができる。（関心・意欲・態度）</p> <p>○ 明治政府が不平等条約を改正することができたわけを、大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、産業の発達、陸奥宗光や小村寿太郎らの努力と関連付けて考えることができる。（思考・判断）</p> <p>○ 明治政府が不平等条約を改正することができたわけについて調べ、調べたことをわかりやすくまとめたり、話し合ったりすることができる。（資料活用・表現・コミュニケーション能力）</p> <p>○ 大日本帝国憲法、日清・日露戦争、産業の発達、陸奥・小村の交渉などにより、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことを理解することができる。（知識・理解）</p>
---

### 3 小単元の構成図

#### 【小単元のねらい】

明治政府は、大日本帝国憲法を公布して近代的な国家の仕組みを整えた。また、日清・日露戦争の勝利や産業の発達によって、日本の国力が高まり国際的地位が向上した。これらのことを背景に陸奥宗光や小村寿太郎らの外務大臣が、粘り強く交渉を重ねた結果、条約改正を成功させることができた。こうして、日本は近代国家として欧米諸国と対等な立場になるまでに成長した。

#### 【考えること】

伊藤博文は初代内閣総理大臣に就任して、ドイツを参考に憲法作りに取り組んだ。憲法調査をして以来7年の歳月をかけて大日本帝国憲法を制定した。そして、選挙を行い、国会を開設して立憲政治を確立した。明治政府及び日本の政治制度が整ったことを外国にアピールできた。

(大日本帝国憲法と帝国議会)

日本は、清国やロシアとの戦争に勝利したことで、国際的地位を向上させた。また、下関条約で得た多額の賠償金により、軍備や産業を発展させて国力を高めていった。ロシアとポーツマス講和条約の締結で国の地位を高め、安全を確保することができた。

(日清・日露戦争の勝利)

岩倉使節団に始まり、歴代の外務大臣たちが粘り強く交渉を行った。陸奥宗光はロシアの進出に懸念したイギリスを交渉相手に選び、粘り強く交渉した。そして、治外法権の撤廃と関税自主権の一部回復に成功した。小村寿太郎もアメリカと交渉し、日本の関税自主権の完全回復に成功した。

(陸奥・小村の交渉)

日本の産業革命は軽工業の発達に始まった。主役となった紡績業・製糸業が大きく発展。中でも生糸の輸出量は世界一になった。また、重工業の分野では、八幡製鉄所が操業を開始して重工業も大きく発展した。日本の産業は、若い女工たちの労働力によって発展した。

また、科学者たちも世界で活躍した。

(産業・科学の発達)

#### 【調べる事実】

- 大日本帝国憲法の公布(1889)
- ・伊藤博文らがドイツ憲法を手本につくった
- ・天皇主権  
(内閣, 裁判所, 帝国議会, 陸軍, 海軍)
- ・アジアで初めての憲法制定

- 選挙と国会の開設
- ・最初の選挙
- ・選挙権…一定金額の税を納めた25歳以上の男子
- ・第1回帝国議会(1890)

- 日清戦争(1894)
- ・朝鮮の支配権をめぐる戦争
- ・「眠れる獅子」清国を破る
- ・下関条約(1895)  
(多額の賠償金と台湾, 遼東半島を譲り受ける)
- ・三国干渉

- 日露戦争(1904)
- ・満州や朝鮮をめぐる戦争
- ・旅順の戦い, 日本海海戦
- ・東郷平八郎らの活躍
- ・ポーツマス条約  
(樺太の南半分, 満州鉄道の利権獲得)

- 岩倉使節団による交渉
- 歴代外務大臣の苦労と努力
- ・寺島宗則
- ・井上馨
- ・大隈重信
- ・青木周蔵
- 陸奥宗光の努力
- ・当時の国際情勢  
(ロシアのアジア進出)
- ・治外法権の撤廃と関税自主権の一部回復(1894 英国と)
- ・下関条約での外務大臣
- 小村寿太郎の努力
- ・ポーツマス条約での外務大臣⇄条約締結に力を尽くした金子堅太郎(福岡市出身)
- ・関税自主権の回復に成功(1911 アメリカと)

- 近代産業の発達
- ・繊維工業の発達
- 生糸の輸出量世界一
- 若い女工たちの労働力と低賃金に支えられた工場
- ・日清戦争後に軽工業を中心に発達
- 重工業の発達
- ・官営八幡製鉄所  
(日清戦争の賠償金の一部が使われる)
- ・日露戦争後に重工業を中心に発達
- ・労働問題
- ・工業問題
- 科学の発達
- ・野口英世
- ・北里柴三郎

4 指導計画（12時間）

段階	配時	学習活動と内容	教師の支援																		
つ か む	1	<p>1 不平等条約の改正のあゆみについて調べ、学習問題をつくる。</p> <p>(1) ノルマントン号事件の資料をもとに当時の明治政府の立場について話し合う。</p> <p>(2) 不平等条約の改正までの年表をもとに学習問題をつくる。</p> <table border="1" data-bbox="300 450 959 730"> <tr><td>1858</td><td>江戸幕府が不平等条約を結ぶ</td></tr> <tr><td>1871</td><td>明治政府の岩倉使節団アメリカと交渉</td></tr> <tr><td>1878</td><td>寺島宗則、治外法権の改正案を出すが失敗</td></tr> <tr><td>1886</td><td>ノルマントン号事件がおきる</td></tr> <tr><td>1887</td><td>井上馨、関税自主権の条約改正に失敗</td></tr> <tr><td>1888</td><td>大隈重信、治外法権の条約改正に失敗</td></tr> <tr><td>1891</td><td>青木周蔵、治外法権の条約改正に失敗</td></tr> <tr><td>1894</td><td>陸奥宗光、治外法権の廃止に成功</td></tr> <tr><td>1911</td><td>小村寿太郎、関税自主権の回復に成功</td></tr> </table> <p>(学習問題) 明治政府は、なぜ不平等条約を改正することができたのだろう。</p>	1858	江戸幕府が不平等条約を結ぶ	1871	明治政府の岩倉使節団アメリカと交渉	1878	寺島宗則、治外法権の改正案を出すが失敗	1886	ノルマントン号事件がおきる	1887	井上馨、関税自主権の条約改正に失敗	1888	大隈重信、治外法権の条約改正に失敗	1891	青木周蔵、治外法権の条約改正に失敗	1894	陸奥宗光、治外法権の廃止に成功	1911	小村寿太郎、関税自主権の回復に成功	<p>○ ノルマントン号事件の意味をとらえることができるように、ビゴアの「ノルマントン号事件の風刺画」を提示する。</p> <p>○ 不平等条約の改正をめざす明治政府に共感することができるように、事件の内容をおさえて、当時の事件の状況を明治政府の立場に立って吹き出しを書くようにする。</p> <p>○ 幕末の不平等条約について想起することができるように、事前に学習した治外法権、関税自主権についてまとめたものを掲示しておく。</p> <p>○ 明治政府が長い年月をかけ、不平等条約を改正することができたことがわかるように、年表の提示の仕方を工夫する。</p>
	1858	江戸幕府が不平等条約を結ぶ																			
	1871	明治政府の岩倉使節団アメリカと交渉																			
1878	寺島宗則、治外法権の改正案を出すが失敗																				
1886	ノルマントン号事件がおきる																				
1887	井上馨、関税自主権の条約改正に失敗																				
1888	大隈重信、治外法権の条約改正に失敗																				
1891	青木周蔵、治外法権の条約改正に失敗																				
1894	陸奥宗光、治外法権の廃止に成功																				
1911	小村寿太郎、関税自主権の回復に成功																				
2	<p>2 学習問題の予想について話し合い、追究の視点をつくる。</p> <p>① (1) 年表や資料から予想を考え、不平等条約を改正することができたわけについて話し合う。</p> <p style="text-align: center;">&lt;子どもの予想&gt;</p> <table border="1" data-bbox="300 1131 959 1288"> <tr> <td>A 政治の仕組みが整ってきたから</td> <td>B 2つの戦争に勝利し、国が強くなったから</td> </tr> <tr> <td>C 外務大臣が粘り強く交渉したから</td> <td>D 産業が発達して国が豊かになってきたから</td> </tr> </table> <p>① (2) 予想をもとに追究の視点について話し合う。</p> <p style="text-align: center;">&lt;追究の視点&gt;</p> <table border="1" data-bbox="300 1435 959 1592"> <tr> <td>A 明治時代にできた憲法や政治の仕組み</td> <td>B 日本がおこなった戦争や戦争の内容</td> </tr> <tr> <td>C 陸奥宗光や小村寿太郎の交渉の工夫や努力</td> <td>D 日本の軽工業と重工業の発達</td> </tr> </table>	A 政治の仕組みが整ってきたから	B 2つの戦争に勝利し、国が強くなったから	C 外務大臣が粘り強く交渉したから	D 産業が発達して国が豊かになってきたから	A 明治時代にできた憲法や政治の仕組み	B 日本がおこなった戦争や戦争の内容	C 陸奥宗光や小村寿太郎の交渉の工夫や努力	D 日本の軽工業と重工業の発達	<p>○ 根拠のある予想を立てることができるように、年表に当時の出来事を加えて提示する。</p> <p>○ 予想の根拠を付加・強化することができるように、自分の予想を考えた後、少人数による話し合いを仕組む。</p> <p>○ 追究の視点を話し合うことができるように、事前に同じ予想によるグループを編成する。</p> <p>○ 追究の視点を整理することができるように、板書を工夫し、調べる視点が明確になるようにする。</p>											
A 政治の仕組みが整ってきたから	B 2つの戦争に勝利し、国が強くなったから																				
C 外務大臣が粘り強く交渉したから	D 産業が発達して国が豊かになってきたから																				
A 明治時代にできた憲法や政治の仕組み	B 日本がおこなった戦争や戦争の内容																				
C 陸奥宗光や小村寿太郎の交渉の工夫や努力	D 日本の軽工業と重工業の発達																				
さ ぐ る	2	<p>3 不平等条約を改正することができたわけについて調べる。</p> <table border="1" data-bbox="300 1686 935 2056"> <tr> <td>A &lt;憲法や政治の仕組み&gt; ・大日本帝国憲法 ・帝国議会</td> <td>B &lt;日本がおこなった戦争&gt; ・日清戦争、下関条約 ・日露戦争、ポーツマス条約</td> </tr> <tr> <td>C &lt;陸奥宗光・小村寿太郎の交渉&gt; ・イギリスと交渉し、治外法権の廃止に成功 ・アメリカと交渉し、関税自主権の回復に成功</td> <td>D &lt;産業の発達&gt; ・官営八幡製鉄所の建設 ・軽工業や重工業の発達</td> </tr> </table>	A <憲法や政治の仕組み> ・大日本帝国憲法 ・帝国議会	B <日本がおこなった戦争> ・日清戦争、下関条約 ・日露戦争、ポーツマス条約	C <陸奥宗光・小村寿太郎の交渉> ・イギリスと交渉し、治外法権の廃止に成功 ・アメリカと交渉し、関税自主権の回復に成功	D <産業の発達> ・官営八幡製鉄所の建設 ・軽工業や重工業の発達	<p>○ 自分の課題について調べることができるように、追究の視点に沿った資料を準備する。</p> <p>○ 調べた事実をわかりやすく発表することができるように、調べたことを表現物にまとめさせ、自分の考えをまとめておくように助言する。</p> <p>○ 調べた事実と自分の考えをわかりやすくまとめることができるように、学習ノートの形式を工夫する。</p>														
A <憲法や政治の仕組み> ・大日本帝国憲法 ・帝国議会	B <日本がおこなった戦争> ・日清戦争、下関条約 ・日露戦争、ポーツマス条約																				
C <陸奥宗光・小村寿太郎の交渉> ・イギリスと交渉し、治外法権の廃止に成功 ・アメリカと交渉し、関税自主権の回復に成功	D <産業の発達> ・官営八幡製鉄所の建設 ・軽工業や重工業の発達																				

5 4 不平等条約を改正することができたわけについて話し合う。

① (1) 同じ予想をもったグループで話し合い、憲法や政治の仕組みについて話し合う。

- 大日本帝国憲法(1889)
  - ・ドイツの憲法を手本に草案
  - ・天皇主権
  - ・伊藤博文が中心となって草案
- 第1回帝国議会(1890)

① (2) 日本がおこなった戦争や産業の発達について話し合う。

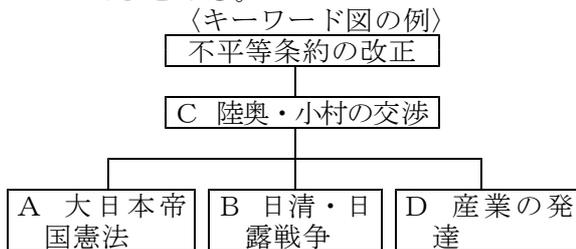
- 日清戦争(1894～1895)
  - ・朝鮮の支配権をめぐる戦争
  - ・すぐれた軍事力で勝利
  - ・下関条約(多額の賠償金、遼東半島の譲渡など)
  - ・三国干渉
- 日露戦争(1904～1905)
  - ・満州や朝鮮をめぐる争い
  - ・激しかった戦い
  - ・東郷平八郎の活躍(日本海海戦での勝利)
  - ・ポーツマス条約(南満州鉄道の権利など)
- 産業の発達
  - ・軽工業の発達(生糸の輸出量世界一)
  - ・官営八幡製鉄所と重工業の発達

① (3) 陸奥宗光・小村寿太郎の交渉について話し合う。

- 陸奥宗光
  - ・カミソリ大臣の異名
  - ・イギリスとの治外法権の撤廃に成功(1894)
  - ・下関条約でも活躍
- 小村寿太郎
  - ・ポーツマス条約の締結
  - ・アメリカを相手に関税自主権の回復(1911)

① (4) 一人一人がキーワード図にまとめ、少人数グループで話し合う。

① (5) キーワード図を使いながら陸奥宗光と小村寿太郎の努力について話し合い、学習問題のこたえについてまとめる。



(学習問題のこたえ)  
 不平等条約の改正に向けて、憲法や国会などの政治の仕組みを整えたり、戦争の勝利や産業の発達により国が豊かになり、国際的地位が高まった。それらを背景に陸奥宗光や小村寿太郎が交渉を進め、不平等条約を改正することができた。日本は欧米諸国と対等な立場になった。

2 5 「明治時代を生きてきた人々」という題で自分の考えを書く。

- 野口英世、北里柴三郎などの活躍
- 科学の発展への貢献

○ 質問や意見を考え、話し合い活動を活発にすることができるように、友達の考えを一覧表にまとめ、事前に配布する。

○ 調べた事実に対する考えを確かに行うことができるように、同じ予想グループを編成し、話し合い活動をおこなう。

○ 効果的な話し合い活動を展開することができるように、最初の発表児童と意図的に指名する児童を教師が決めておく。

○ 調べたことを分かりやすく発表するために、発表の仕方を示すなど、効果的な発表の仕方をアドバイスする。

○ 話し合いによって子どもたちの考えが高まっていくように、代表児童の発表をもとに付け加えをしながら話し合い活動を進めるようにする。

○ 各グループの発表の後に、不平等条約の改正に成功した当時の日本の様子を考えさせる。

○ キーワード図で使うキーワードを整理して提示する。

○ 一人一人が事実と事実を関係づけながらキーワード図をつくることのできるように、今までの話し合いで使われた表現物を掲示しておく。

○ 自分の考えを事実と関連づけながら発表できるように、キーワード図をもとに発表させる。

○ 陸奥宗光と小村寿太郎の努力がわかるように、板書を構造的に構成する。

○ 陸奥宗光と小村寿太郎の交渉の苦労がわかるように、陸奥宗光が改正の3年後、小村寿太郎が改正と同じ年に亡くなったことを伝える。

○ 単元を通して、自分の考えの高まりを自覚できるように学習ノートの形式を工夫する。

○ 国際社会で活躍した人々をとらえさせるために、どのような功績を残してきたのか調べさせ、科学の面でも国際的地位が向上してきたこと理解させる。

## 第6学年 本時指導案

### 1 本時「ノルマントン号事件の風刺画と年表をもとに、学習問題をつくる場面」(1/12)

【コミュニケーション1】

### 2 本時の目標

- ノルマントン号事件の風刺画と不平等条約の改正までの年表をもとに学習問題をつくり、不平等条約を改正することができたわけをさぐっていこうとする問題意識をもつことができる。

### 3 本時の見どころ

本時は、不平等条約を改正できたわけをさぐっていく学習問題をつくる場面です。ノルマントン号事件の風刺画と不平等条約の改正までの年表から疑問をもたせ、少人数での話し合いや、全体での話し合いを通して、本時の目標にせまります。

### 4 本時指導の考え方

子どもたちは、これまでに黒船の来航がきっかけで、結ばれたアメリカやイギリスなど5カ国との条約が、日本にとって不平等なものであることを理解している。また明治維新、文明開化についても学習し、明治政府が近代的な政治や社会の仕組みを整えるために諸政策を行ってきたことや、欧米の文化を取り入れつつ西洋化を進めてきたことを理解している。

本時は、ノルマントン号事件の風刺画や不平等条約の改正までの年表をもとに、学習問題をつくる場面である。2つの資料から気付いたことを話し合い、自分なりの学習問題を考え、少人数で話し合う。その後、全体で話し合い、明治政府が不平等条約を改正することができたわけをさぐる学習問題を設定し、問題意識をもつことができるようにすることが主なねらいである。

そこで、本時指導にあたっては、次のような手立てをとりながら学習を展開していく。

- まず、ノルマントン号事件の様子を知るために、ビゴアの「ノルマントン号事件の風刺画」を提示し、事件の内容を伝える。次に、条約が日本にとって不利なものであることを改めてとらえるために、事件の場所を地図帳で確認し、その場所が日本の領海なのにドレイク船長がイギリスの領事裁判で軽い罪にしか問われなかったことを伝える。そして、ノルマントン号事件後の明治政府の立場を考えるために、吹き出しに書くようにする。

#### ノルマントン号事件（1886年）

イギリス船ノルマントン号が和歌山県の沖合で沈没。ドレイク船長が、日本人25人全員を見殺しにした。しかし、イギリス領事が裁判を行い、ドレイク船長は、禁固3ヶ月の軽い刑だった。

- 次に、不平等条約を改正するまでに何度も失敗を重ねながら、53年もかかって改正したことをとらえることができるように、「不平等条約改正のあゆみ」の年表を工夫して提示する。また、不平等条約が当時の生活に、どれほどの影響力があったのか再度確認させるために、不平等条約の内容を振り返る。そして、明治政府が長い年月をかけ、不平等条約を改正をすることができたことに気付かせ、学習問題をつくらせていく。
- 自分なりの学習問題を考えた後は、自分の考えに自信をもったり、友達の考えを参考にしたりするために、少人数で話し合うようにする。
- 最後に、子どもたちの考えをまとめて学習問題をつくるために、自分なりの学習問題を全体で話し合い、大事な言葉を板書で整理して、クラスの学習問題を設定する。さらに、「今日の学習で」に本時の学習でわかったことや学習問題の予想を書かせて、次時への学習意欲を高める。

5 本時の展開

配時	期待する子どもの姿	学習活動と内容	教師の支援
2分	○ 学習問題づくりに意欲的に取り組もうとしている。	1 本時学習のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2つの資料もとに学習問題をつくろう。</div>	○ 幕末に結んだ不平等条約の内容を想起できるように資料を掲示しておく。
18分	○ 和歌山県の近くで、日本人が25人も見殺しにされるなんてひどい。 ○ ドレイク船長が3か月の刑なんて軽すぎる。  ○ 国民の怒りは、もったもだ。許せない。 ○ 早く条約を改正したい。  ○ 明治政府の外務大臣が何人も交渉したんだ。  ○ 条約改正に、何回も失敗している。  ○ 条約改正までには53年もかかっている。  ○ 不平等条約の改正に何回も失敗しているけど、どうして成功できたのかな。	2 資料を見て気づいたことを話し合う。 (1) ノルマントン号事件について話し合う。 ○ ノルマントン号事件(1886) ・ 事件の場所の確認 ・ 助けを求める多くの日本人 ・ ドレイク船長が、日本人を見殺しにしている様子 ・ ドレイク船長の軽い刑 ・ 日本で裁判できない  ○ 明治政府の立場に立った吹き出し ・ 国民の怒りへの共感 ・ 不利な条約への憤り ・ 不平等条約の早急な改正 (2) 不平等条約改正までの年表を見て話し合う。 ○ 不平等条約改正の歩み <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1858 江戸幕府が、不平等条約を結ぶ。 1871 明治政府の岩倉使節団がアメリカと交渉する。(失敗に終わる) 1878 寺島宗則、治外法権の改正案を出すのに失敗する。 1886 ノルマントン号事件がおきる。 1887 井上馨、関税自主権の条約改正に失敗する。 1888 大隈重信、治外法権の条約改正に失敗する。 1891 青木周蔵、治外法権の条約改正に失敗する。 1894 陸奥宗光、治外法権の廃止に成功する。 1911 小村寿太郎、関税自主権の回復に成功する。</div> ○ 何度も交渉に失敗 ○ 53年間かかって改正の成功	○ ノルマントン号事件をとらえることができるように、ビゴアの風刺画を提示する。 ○ 不平等条約によって日本が不利な立場であったことを確認するために、ノルマントン号事件の内容を伝える。 ○ 日本の領海での事件を日本で裁くことができなかつた不合理さに気付かせるために、事件の場所を地図帳で確かめドレイク船長がイギリスの領事裁判で禁固3か月の軽い刑だったことを伝える。 ○ ノルマントン号事件後の明治政府の立場を考えることができるように、吹き出しに書かせる。 ○ 不平等条約の資料から不平等条約の内容を再度確認する。 ○ 不平等条約改正までに、失敗を重ねながら53年間かかって改正させたことをとらえるために、年表を提示する。  ○ 何人も外務大臣が不平等条約の改正に失敗し、やっと成功したことに気付かせるために、提示の仕方を工夫する。  ○ 不平等条約の不合理さを考えさせるために、不平等条約の頃の日本と、現在の日本を対比して考えるようにする。  ○ 自分なりの学習問題をつくることにつなげるために、資料や子どもたちの気付きを板書で整理する。
20分	○ 明治政府の人たちの努力で改正できたという考えもあるんだ。自分の考えを少し見直してみよう。 ○ 明治政府がなぜ条約改正をすることができたのかを調べる学習問題にしたほうがよさそうだ。	3 2つの資料をもとに学習問題をつくる。 (1) 自分なりの学習問題をつくる。 (2) 学習問題を少人数で話し合う。 (3) 学習問題を全体で話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(学習問題) 明治政府は、なぜ不平等条約を改正することができたのだろう。</div>	○ 自分なりの学習問題に自信をもたせるために少人数での話し合い活動を仕組む。  ○ クラスで話し合った学習問題をまとめるために、子どもたちの発言の中で大事な言葉を板書で整理する。
5分	○ 明治政府はやっと条約を改正することができたんだ。この次はどうして条約を改正することができたのか予想しよう。	4 「今日の学習で」を書き、本時学習をまとめる。 ○ 本時の学習でわかったこと ○ 次の学習に向けて学習問題の予想	○ 本時の話し合いによって、自分の考えを振り返ることができるように「今日の学習で」を書く視点を助言する。 ○ 次時の学習意欲を高めるために、予想を書くように助言する。



【ノルマントン号事件の風刺画】

## 第6学年 本時指導案

### 1 本時「新たな資料をもとに明治政府が不平等条約を改正することができた予想について話し合う場面」(2/12) 【コミュニケーション2】

#### 2 本時の目標

- 年表からの気づきや話し合い活動をもとに、学習問題「明治政府はなぜ不平等条約を改正することができたのだろう。」の予想を考え、追究意欲を高めることができる。

#### 3 本時の見どころ

本時は、不平等条約を改正することができたわけを予想する場面です。新たな年表の提示や二人組での話し合いにより、一人一人に根拠のある予想をもたせ、全体での話し合い活動を通して、本時の目標にせまります。

#### 4 本時指導の考え方

前時までに、子どもたちはノルマントン号事件の風刺画と年表から、当時の国民の気持ちや明治政府の立場で不平等条約の改正の必要性を切実に感じるすることができた。そして、不平等条約を改正するまでの53年もの間に何人もの外務大臣が交渉に失敗をしてきたが、陸奥宗光と小村寿太郎の二人が不平等条約の改正に成功したことから、学習問題を「明治政府はなぜ不平等条約を改正することができたのだろう。」と設定した。

本時では、新たな出来事を付け加えた年表から、自分の予想と根拠をもち、話し合い活動を通して自分の予想を見直したり、付け加えたりしながら、一人一人が学習問題の予想を考えることができることをねらいとしている。

そこで、本時指導にあたっては、次のような手立てをとりながら学習を展開していく。

- まず、明治政府にとって不平等条約の改正が難しかったことを感じさせるために、子どもたちを明治政府の外務大臣の立場に立たせ、教師がイギリス政府の立場に立って役割演技をする。ノルマントン号事件の後を受け、子どもたちは何とかこの条約を改正したいとの思いで、自分なりの言葉を考え、教師とやりとりをしていく。しかし、改正することができなかったことで、不平等条約改正の難しさを感じさせたい。そして不平等条約を絶対に改正することが当時の日本にとって大切だったことを考えさせたい。
- 次に、予想と根拠を考えさせるために、新たな資料として前時の年表に次の出来事を付加して提示する。予想は、不平等条約を改正することができたのは日本がどうなったからなのかを考えさせて、その根拠となる出来事を年表から考えるように助言する。

・大日本帝国憲法を發布する。	(1889年)
・第一回総選挙が行われる。	(1890年)
・第一回帝国議会が開かれる。	(1890年)
・日清戦争がおこり、日本が勝利する。	(1894～95年)
・このころより軽工業が発達する。	
・官営八幡製鉄所を建設する。	(1901年)
・日露戦争がおこり、日本が勝利する。	(1904～05年)
・このころより重工業が発達する。	
・生糸の輸出量が世界一になる。	(1909年)

- さらに、自分が考えた予想と根拠を見直したり、付け加えたりするために、同じ予想をもった二人組での対話の場を設定する。その際には、自分の予想をホワイトボードに書いて、自分で対話活動の相手をさがしてグルーピングを行う。教師はスムーズにグルーピングができるように助言する。対話活動の場において、教師は各グループをまわり友達の考えに対して意見や質問をするよう助言したり、子どもたちの予想や根拠を把握したりする。
- 予想をクラス全体で検討するために全体で話し合いを行う。子どもたちの相互指名による話し合いを進めながら、教師の意図的指名を入れて予想と根拠を出させていく。また、子どもたちから出た予想と根拠を教師はわかりやすく板書にまとめていく。予想は「政治の仕組みが整ってきたから」「2つの戦争に勝利し、日本が強くなったから」「外務大臣が粘り強く工夫して交渉したから」「日本の産業が発達したから」の4つに整理していく。

5 本時の展開

配時	期待する子どもの姿	学習活動と内容	教師の支援
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ノルマントン号事件はひどかった。あれは日本人として許せない！</li> <li>○ 不平等条約が改正できたことについて予想をたてようと意欲をもっている。</li> </ul>	<p>1 本時学習のめあてを確かめる。</p> <p>(1) 前時の学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ノルマントン号事件</li> <li>○ 不平等条約改正までの道のり</li> </ul> <p>(2) 明治政府の外務大臣の立場に立って、イギリス政府にどのように交渉していくか考えさせて、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ノルマントン号事件の風刺画と不平等条約改正の年表を掲示して、事件の意味や多くの外務大臣が改正に失敗してきたことを想起させる。</li> <li>○ 子どもたちに外務大臣の立場に立たせ、教師はイギリス政府の立場に立ち、2～3名に役割演技をさせる。交渉がいかにか難しかったかを考えさせて、本時のめあてをつかませる。</li> </ul>
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 25人も死んでいるんですよ！条約を改正して船長をもっと重い罪にしてください！</li> </ul>	<p>(3) 本時学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>不平等条約を改正できたのはなぜか、こたえの予想を話し合おう。</p> </div>	
15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ どうして不平等条約を改正できたのだろう。年表に加わった新しい出来事は何か秘密があるのかな。</li> <li>○ □□さんと同じ予想だな。どんな根拠なんだろう。</li> <li>○ 自分の考えた予想を意欲的に説明したり、友達予想に質問したり、しようとしている。</li> </ul>	<p>3 資料をもとに、なぜ不平等条約が改正できたのか、自分で考えた予想と根拠を話し合う。</p> <p>(1) 資料をもとにこたえの予想を考えて根拠を明らかにして、学習ノートに書く。</p> <p>(2) 自分の予想をホワイトボードに書いて、自分と同じ予想の友達と対話活動を行う。</p> <p>(3) 友達と対話したことをもとに見直したり、付け加えたりした予想・根拠を書き加える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 予想と根拠を考えさせるために、前時の年表に新たな出来事を付け加えて提示する。</li> <li>○ 予想を考えたことができない子どもには、いっしょに資料を見ながら、助言する。</li> <li>○ 対話のグループを組みやすくするために、ホワイトボードを活用する。話し合い活動が停滞しているところには教師が入り、助言する。</li> <li>○ 予想や根拠を見直したり、付け加えたりしたことがわかるように、学習ノートの形式を工夫する。</li> </ul>
15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今まで日本は外国に比べて遅れていたけど、憲法などができて、外国と同じようになってきたからです。</li> <li>○ 不平等条約を改正できたのは、日本が強くなったからです。わけは清国やロシアに戦争で勝ったからです。</li> <li>○ 陸奥宗光や小村寿太郎たちがどのように交渉していたのか調べよう。</li> </ul>	<p>4 予想と根拠を全体で話し合う。 &lt;子どもの予想と根拠&gt;</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>A 政治の仕組みが整ってきたから ↑ 大日本帝国憲法が發布されている</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>B 2つの戦争に勝利し日本が強くなったから ↑ 日清・日露戦争に勝利している</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>C 陸奥宗光・小村寿太郎が粘り強く工夫して交渉したから ↑ 陸奥宗光・小村寿太郎の時に成功している</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>D 日本の産業が発達したから ↑ 軽工業や重工業が発達したり、生糸の生産量が世界一になっている</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 予想を話し合いでまとめていくために、子どもの相互指名による話し合いの中に、教師の意図的な指名を入れていき、話し合いを行う。</li> <li>○ 自分の考えた予想を話すときは、根拠を明らかにして話したり、資料などを活用しながら説明したりするように助言する。</li> <li>○ 子どもたちの発表する予想と根拠をわかりやすくまとめるために、板書で分類・整理する。</li> </ul>
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調べていくことを進んで学習ノートに書いている。</li> </ul>	<p>5 「今日の学習で」を書き、本時学習をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分が調べていくこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「今日の学習で」には次時につながるように、調べていくことを書かせる。</li> </ul>

## 第6学年 本時指導案

### 1 本時「キーワード図をつかい明治政府が不平等条約を改正できたわけを話し合う場面」(10/12)

【コミュニケーション3】

### 2 本時の目標

- 明治政府が不平等条約を改正することができたのは、大日本帝国憲法の発布や日清・日露戦争の勝利、産業の発展などによって国力が充実し、国際的地位が向上したことを背景に、外務大臣である陸奥宗光と小村寿太郎たちが粘り強く欧米諸国と交渉を重ねた結果であることを理解することができる。

### 3 本時の見どころ

本時はキーワード図をもとに、学習問題のこたえをまとめる場面です。キーワード図を使い、「大日本帝国憲法」「日清・日露戦争」「産業の発達」「陸奥宗光・小村寿太郎の交渉」の関連について全体で話し合うことを通して、本時の目標にせまります。

### 4 本時指導の考え方

前時までに、子どもたちは不平等条約を改正することができたわけについて調べ、「憲法や政治の仕組み」「日本がおこなった戦争」「産業の発達」「陸奥・小村の交渉」について話し合いをおこなってきた。それぞれが調べてきた事実の発表を聞き、質問や意見をもとに話し合いながら不平等条約を改正することができたわけとつながることは理解している。これらのことをもとに「不平等条約の改正」「陸奥・小村の交渉」「大日本帝国憲法」「日清・日露戦争」「産業の発達」のキーワードを使って自分なりのキーワード図をつくっている。キーワード図には、自分なりに事実と事実を結び、結んだ理由を書き込み、関係性について考えている。そのキーワード図をもとに少人数で話し合い活動をおこなっている。

本時は、明治政府が不平等条約を改正することができたのは、大日本帝国憲法の発布や日清・日露戦争の勝利、産業の発展などによって国力が充実し、国際的地位が向上したことを背景に、外務大臣である陸奥宗光と小村寿太郎たちが粘り強く欧米諸国と交渉を重ねた結果であることを理解することが主なねらいである。

そこで、本時指導にあたっては、次のような手立てをとりながら学習を展開していく。

- まず、焦点化した話し合い活動を展開することができるように、モデルになる子どものキーワード図を提示する。モデルの子どもには、調べた事実をふまえ、キーワードをつないだ理由を発表するように助言する。
- 次に、陸奥宗光と小村寿太郎が大日本帝国憲法や日清・日露戦争、産業の発達を背景に交渉したことが理解できるように、キーワード図をもとに話し合いをさせる。ここではキーワード図で「陸奥宗光と小村寿太郎の交渉」と結んだことを中心に話し合いをおこなう。子どもたちが今まで学習してきた事実とつなげながら話し合い活動ができるように、子どもたちが作成した表現物を掲示しておいたり、板書できるようにしておく。
- 陸奥宗光と小村寿太郎が粘り強く交渉したり、「大日本帝国憲法」「日清・日露戦争」「産業の発達」を背景にしたりしながら、不平等条約を改正することができたことを視覚的にとらえることができるように、板書を構造的に構成する。
- 陸奥宗光と小村寿太郎が不平等条約を改正するために生涯をかけて交渉したことをとらえるために、陸奥宗光は治外法権の撤廃の3年後、小村寿太郎は関税自主権の回復と同じ年に亡くなったことを教師が話す。また、陸奥宗光と小村寿太郎の交渉が日本にとって重要だったことをとらえさせるために、条約改正後の様子がわかる資料を提示する。
- 最後に、不平等条約を改正することによって、欧米諸国と対等な立場になったことに気付くことができるように、「50年以上かかって不平等条約の改正を果たしたことは、明治の日本にとって、どんな意味があったのだろうか」という発問をおこなう。

5 本時の展開

配時	期待する子どもの姿	学習活動と内容	教師の支援
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時学習のめあてを確かめ、意欲をもって取り組もうとしている。</li> <li>○ 私のキーワード図は陸奥と小村ががんばって何度も交渉したので真ん中にしたよ。</li> </ul>	<p>1 本時学習のめあてを確かめる。</p> <p>キーワード図を使って話し合い、学習問題のこたえをまとめよう。</p> <p>2 陸奥宗光と小村寿太郎の努力や工夫について話し合い、学習問題のこたえをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ キーワード図を使って話し合い活動ができるように、事前に事実と事実を関係づけたキーワード図を各自に書かせ、少人数での話し合いや見直しをさせておく。</li> </ul>
20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 私のキーワード図は、陸奥宗光と小村寿太郎が日清・日露戦争で勝利したことを生かして交渉したので、陸奥・小村の交渉をつないだよ。</li> <li>○ 陸奥宗光と小村寿太郎が不平等条約を改正できたのは、産業の発達により日本が豊かになったからだ。</li> <li>○ イギリスやアメリカなどの相手国も自分の国を背負って交渉しているので、改正はさせたくないんだ。</li> <li>○ 陸奥宗光と小村寿太郎は今までの大臣の思いを受け継いでがんばったんだと思います。</li> <li>○ 陸奥宗光と小村寿太郎は、こんな大変な中で不平等条約を改正することができたんだ。</li> </ul>	<p>(1) 陸奥宗光と小村寿太郎の努力や工夫について話し合う。</p> <p style="text-align: center;">不平等条約の改正</p> <p style="text-align: center;">陸奥・小村の交渉</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">大日本帝国憲法</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">日清・日露戦争</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">産業の発達</div> </div> <p>陸奥宗光と小村寿太郎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 憲法や政治の仕組みを整えて近代的な国家になった</li> <li>○ 日清・日露戦争で勝利したり大国と戦ったりして日本が強くなってきたことを見せつけた</li> <li>○ 産業の発達により日本の技術が高まり、国が豊かになった</li> <li>○ 今までの大臣の思いを受け継ぎ、明治政府の悲願のためにがんばった</li> <li>○ 国民の思いをうけ、ぜひとも成功させなければいけなかった</li> </ul> <p style="text-align: center;"></p> <p>イギリス・アメリカなどの相手国</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 有利な条約を改正できない</li> <li>○ 自分たちの影響力が弱くなる</li> <li>○ 他の国との関係がある</li> <li>○ 自分の国を背負っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 焦点化した話し合い活動を展開することができるように、モデルになる子どものキーワード図を提示する。モデルの子どもには、調べた事実をふまえてキーワードをつないだ理由を発表するように助言する。</li> <li>○ 子どもたちが今まで学習してきた事実とつなげながら話し合い活動ができるように、子どもたちが作成した表現物を掲示しておく。</li> <li>○ 陸奥宗光と小村寿太郎が大日本帝国憲法や日清・日露戦争、産業の発達を背景に交渉したことについて考えることができるように、陸奥宗光と小村寿太郎の交渉をつないだことを中心に話し合い活動をおこなう。</li> <li>○ 子どもたちが陸奥宗光と小村寿太郎の苦労や努力・工夫を視覚的にとらえることができるように、板書を構造的に構成する。</li> </ul>
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 条約改正は号外が出るぐらい国民にとって重要なことだったんだ。</li> <li>○ 今日の学習で陸奥宗光と小村寿太郎が生涯をかけて交渉し、不平等条約を改正できたことがわかったよ。</li> </ul>	<p>(2) 学習問題のこたえについて話し合う。</p> <p>(学習問題のこたえ)</p> <p>不平等条約の改正に向けて、憲法や国会などの政治の仕組みを整えたり、戦争の勝利や産業の発達により国が豊かになり、国際的地位が高まった。それらを背景に陸奥宗光や小村寿太郎が交渉を進め、不平等条約を改正することができた。日本は欧米諸国と対等な立場になった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 陸奥宗光と小村寿太郎の交渉が日本にとって重要だったことをとらえさせるために、条約改正後の様子が見える資料を提示する。</li> <li>○ 不平等条約を改正することによって欧米諸国と対等な立場になったことを気付くことができるように、「50年以上かかって不平等条約の改正を果たしたことは、明治の日本にとって、どんな意味があったのだろうか」という発問をおこなう。</li> </ul>
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 不平等条約の改正は明治政府にとって、イギリスなど欧米諸国と対等な立場になるので重要だったんだ。</li> </ul>	<p>3 「今日の学習で」を書き、本時学習をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 不平等条約の改正             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 欧米と対等の立場に立った日本</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えの高まりを自覚できるように、学習ノートの形式を工夫する。</li> </ul>